



サイジャーナル

月刊
1-11-12
第448号

日本サイ科学会 令和1年11月1日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

東 北 〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1 アサビル201号 佐佐木 康 二 ☎ 022 (279) 0908・FAX 022 (274) 0097	中 部 〒455-0053 名古屋市港区 名四町113 眞 野 博 英 ☎ 090-9196-2963	北 陸 〒920-0031 金沢市広岡2-7-25 プレミス金沢駅西口1 804号 佐 藤 禎 花 ☎ 076 (234) 6634	関 西 〒545-0034 大阪市阿倍野区 阿倍野元町1-2 和 田 高 幸 ☎ 06 (6624) 0569・FAX 06 (6624) 5061	九 州 〒851-2122 長崎県西彼杵郡 長与町本川内16-6 森 安 政 仁 ☎ 095 (883) 6048・FAX 095 (883) 6159
--	--	---	---	---

十二月本部例会のお知らせ

忘年会も兼ねた会員の体験
意見発表と討論の会

日時 令和元年12月14日(土)

午後1時30分～4時30分

会場 北とびあ7階第一研修室

交通 J R 京浜東北線王子駅下車
徒歩2分、ホーム最北端(赤
羽寄り)の階段を下り改札
口を出て見える高層ビル

会費 一〇〇〇円

毎年恒例となっている一人の講
師の講演ではなく、参加者の皆様
からの UFO、超常現象、心霊現
象、オーブ等サイ現象に関する目
撃・体験や意見の発表、それらを
テーマにした意見交換・討論等、
気楽な感じで懇談会を開催しま
す。

皆様の中で、ご自分で撮った不
思議な写真、ビデオ映像等をお持
ちの方や、UFO、超常現象、心
霊現象、オーブ等サイ現象で発表
したいことがあります。是非
事務局にメールでご連絡願います。
office21@psij.mail-box.ne.jp

またスプーン曲げ等の念力、透
視能力・予知能力などサイ能力に
自信のある方、または友人、知人
に能力者のいる方は是非お連れし
てください。

特別講師はおりませんが、参加
者の皆様の自由な発言でいつも楽
しい会になりますし、終了後の懇
親会も面白い話題で盛り上がりま
す。

参加費は、会員、一般とも千円
です。ので、気楽にご参加願います。

※11月と1月の本部例会はお休み
となります。

年会費未納入の会員の皆様へ

「サイジャーナル3・4月号」
に年会費納入用の郵便振替用紙を
同封致しましたが、未了の会員の
方がいらつしやいます。

日本サイ科学会の活動は皆様の
年会費で支えられておりまして、
現在会計も厳しい状況です。是非
早めのお振り込みをよろしく
お願い致します。

今月号の記事

- ◎ 十二月本部例会のお知らせ
- ◎ 事務局からのお知らせ
- ◎ 二月本部例会のお知らせ
- ◎ 御寄付御礼
- ◎ 関西サイ科学会十一月、一月研究
集会、十二月忘年会のお知らせ
- ◎ 第10回スピリチュアル研究分科
会のお知らせ
- ◎ 第38回宇宙生命研究分科会
のお知らせ
- ◎ 第5回占星学と運命創造学の研
究分科会のお知らせ
- ◎ 平成30年9月本部例会報告 I
- ◎ 第四〇回関西サイ科学会報告
- ◎ 本部例会ビデオ映像販売
- ◎ 本例会会講演録音の販売
- ◎ 「心」の科学研究の開始について
- ◎ サイ科学が理想社会に導く

二月本部例会のお知らせ

「カタカムナ潜象物理」を基に
した生命創造の基礎構造(仮
説)による意識体ゼロ化を可
能にするヒーリングメソッド

講師 アマナ(呉清恵)氏

日時 令和2年2月1日(土)

午後1時30分～4時30分

会場 北とぴあ7階701会議室
交通 JR京浜東北線王子駅下車
徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 会員 二千元(当日入会可)
一般 三千元 学生 一千元

本講演では、生命創造のプロセスについて、「カタカムナ潜在物理」と呼ばれるものについての理解を基礎にした講演者の仮説を基にして、意識体の憑依をゼロ化するヒールングメソッドについて、その理論と実践的方法をご報告します。

講演者の仮説は、「出産土器」と呼ばれる縄文土器の文様の構造の歴史的比較構造分析から出た仮説と、「カタカムナ潜在物理」が示す生命創造の基礎構造についての仮説的理解を基にしつつ、意識が如何に生命の創造と消滅(ゼロ化)に緊密に関与しているかということを示唆するものです。

「カタカムナ潜在物理」とは、楢崎皐月(ならざき こうげつ)とい

う電気物理学者が、1949年に、平十字(ひらとうじ)と名乗る人に見せられた巻物に描かれていた、抽象文字から成る80個の渦巻きを解読した生命と宇宙の物理についてのサトリを示します。

※アマナ氏は長年、カタカムナを研究され、「カタカムナ潜在物理」から導かれるいくつかの法則の解説をして来られました。本部例会では初めての御講演ですので、会員の皆様はご友人・知人をお誘いして、是非ご参加願います。

◎アマナ(呉清恵)氏のプロフィール

大阪市立大学経済学研究科博士課程満期修了、統合学博士(カリフォルニア統合学研究所)。現在大阪経済法科大学アジア研究所客員研究員。チエルノブイリ原発事故で衝撃を受け、3～4世代先の子供達に遺せるものを求める中で、「カタカムナ文獻」に出合う。その後カリフォルニアに家族と移り住み、ネイティブアメリカンの精神性とシャーマニズムを学び、瞑想や多次元エナジーワークを実践しつつ、博士課程に在籍して研究

を行う。現在、日本に活動拠点を置きつつ、カリフォルニアでもクラスを定期的に開催している。著書『潜在のサイエンスで解く縄文・カタカムナ・レイキ』ヒカルランド、2018年。

「心を科学する博物館」と一般の御寄付御礼(10/14受領分まで)

金二万円也 匿名様

関西日本サイ科学会 十一月研究集会のお知らせ

海の神さま住吉大社 | 物語と神異にみる神徳

講師 小出 英詞氏 (住吉大社 権禰宣)

日時 令和元年11月16日(土) 午後1時15分～4時45分

会場 阿倍野市民学習センター スタジオ
交通 地下鉄谷町線「阿倍野駅」7号出口よりあべのベルタ地下2階通路を通りエスカレーターで3階へ
会費 会員及び同伴の家族 二千元 一般 三千元(初回参加者 二千元) 学生 一千元
問合せ 072-445-7737

関西日本サイ科学会 2019年放談会(懇親会)

日時 令和元年12月14日(土) 午後4時～7時
参加費 三五〇〇円(飲食費共) 会場 まつむし音楽堂 電話 06-6624-0559 交通 阪堺電車「松虫駅」下車 すぐ、地下鉄「阿倍野駅」から徒歩10分

※事前予約が必要です。席数に限りがありますので、参加ご希望の方は11月20日(水)までにinfo@ardes.jpまで、メールでお申込みください。

非会員の方も大歓迎です。

※十二月の研究集会はお休みです。



関西日本サイ科学会
一月研究集会のお知らせ

令和2年2020年
どうなる日本、世界

講師 マドモアゼル・愛氏

日時 令和2年1月18日(土)

午後1時15分〜4時45分

会場 阿倍野市民学習センター

スタジオ

交通 地下鉄谷町線「阿倍野駅」

7号出口よりあべのペルタ

地下2階通路を通りエスカ

レーターで3階へ

会費 会員及び同伴の家族二千円

一般三千円(初回参加者二千円)

学生 一千円

問合せ06・6624・0559



第10回スピリチュアル研究
分科会のお知らせ

故人から学んだ「最高の生き方・逝き方」・メッセージの受け取り方の実践

講師 陽光氏(ことだま師)

日時 令和元年11月4日(月・休)

午後1時30分〜4時30分

会場 北とびあ9階901会議室

交通 JR京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤

羽寄り)の階段を下り改札

口を出て見える高層ビル

会費 会員 一千円(当日入会可)

一般 二千円 学生 一千円

※当日会場にて直接、現金にて

参加費をお支払い下さい。

内容

「天上界や自然界からのメッセ
ージの受け取り方」と、故人から教
えられた「最高の生き方・逝き方」
について皆さんにお伝えしたいと
思います。さらに様々な目に見え
ない存在や故人からのメッセージ
を受け取るコツについて、誰でも

簡単にできる実践を行いながら皆
さんと一緒にスピリチュアルな
楽しい時間を共有したいと思っ
ています。

◎陽光氏のプロフィール

埼玉県本庄市生まれ、神川町在
住。約10年前に本屋で出会った一
冊の本に心を動かされ、精神世界
への道に踏み入れる。自身の生き
方を模索していた時に、一人の路
上詩人との出会いをきっかけに感
得、言葉の力「ことだま」の持つ
素晴らしいパワーを実感、201
2年よりインスピレーションでメ
ッセージを書き下ろす活動を開始。
これまでに書き下ろした数は3万
枚以上となる。昨今では自然界や
天上界、また故人からのリーディ
ングメッセージを受け取り、注文
製作の傍らイベントや企業等の研
修依頼を受け関東一円で活動中。



第38回宇宙生命研究分科会

テーマ「虚数宇宙」

日時 令和元年12月21日(土)

午前10時〜午後4時

会場 北沢タウンホール第一集会所

(世田谷区北沢2・8・18)

交通 小田急線・京王井の頭線

下北沢駅北口徒歩5分

小田急バス北沢タウンホー

ル系統 下61(駒沢陸橋―

北沢タウンホール)終点

会費 会員 1000円(日本サイ

科学会・サトルエネルギー学会)

一般 2000円

※事前参加申し込みは不要です。

※当日会場にて直接、現金にて

参加費をお支払い下さい。

(世話役 阿久津 淳)



第5回 占星学と運命創造学
の研究分科会

日時 令和2年1月13日(月・祝)

午後1時30分〜4時30分

会場 北とびあ8階802A会議室

交通 JR京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端(赤

羽寄り)の階段を下り改札

口を出て見える高層ビル

会費 会員 一千元(当日入会可)

一般 二千元 学生 一千元

※後述の★欄をご覧ください。ご参加予約願います。

※当日会場にて直接、現金にて参加費をお支払い下さい。

テーマ

2020年の個人の運勢診断と日本と世界の情勢予測

講師 瀬尾 泰範氏

西洋占星学のハーモニクス理論に基づく当会独自の「アストロハーモニックチャート」を使って、参加者個人の運勢診断をセミナー形式でその都度、自由に質問を受けながら、分かりやすく解説致します。また昨年ご紹介しました「運命創造曼荼羅」のバージョンアップ版も配付致します。

今回は参加者の皆様それぞれの2020年1月からの月運チャート「アストロハーモニックチャートS」18カ月分をお渡しして(1人分無料)、一カ月ごとの詳細な先天運の波を知ることにより、その対処

法をアドバイス致します。

また水星、金星、火星の2020年1月～2021年6月にかけて、それぞれの星が数日～2カ月位で通過する星座運行による、比較的短周期の環境運の見方と対処法も解説致します。

「ハーモニクス理論」は英国の占星学者ジョン・アディー氏の提唱した新しい理論で、瀬尾がそれを土台にしながら、独自のチャート解析法を確立したのが、「アストロハーモニックチャート」です。

今まで星と星が形成する様々な特別な角度(アスペクト)があるか、ないかの二値で診断してきた旧来の方法では、不正確な診断になりやすいので、アスペクトの正確度を電気工学の共振性に模して、2つの星同志の関係を数値化し、すべてのアスペクトについて、総合診断することで、様々なことが分かってきました。特にその人の才能診断や運勢診断に於いて、ホロスコープ(出生天宮図)では分からないことが読めるようになります。

さらに、アストロハーモニック

チャートを使って、2020年の日本と世界の情勢予測をします。

2019年1月の分科会で、「今年5月に天王星が経済・金融の星座・牡牛座に入るので、今後7年間は経済・金融関連で、大変動、大きなトラブルが来る」ことを予測致しましたが、5月以降米中貿易戦争が激しくなり、英国のEU脱退対立、日韓の貿易と経済のトラブル、香港の民衆決起紛争による経済の落ち込みが進行しております。日本の消費税アップの影響も懸念があります。

今回も複数のチャートをより深く診断して、経済面も含めて2020年の日本と世界の情勢を診断致します。

◎瀬尾泰範氏のプロフィール

静岡県清水市(現静岡市)生まれ。西洋占星学を40年以上研究、かつプロとして診断もし、70年代に英国のJoga M. Adey氏が提唱したハーモニクス理論を発展させて、独自の「アストロハーモニックチャート」を使い、パーソナリティや才能、運勢等の新しい診断法を確立した。

一般人レベルの念動力も測定で

きる「サイポテンシャルメーター」を開発し、PK・ESP能力の養成も指導している。

「才能発見育成研究所」、「アストロハーモニック」を主宰、日本サイ科学会理事。

★既に分科会に参加されて、当会のホロスコープ(出生天宮図)をお持ちの皆様へ

分科会では参加者ご本人(あるいはご子息等)の月運診断チャートを当日診断に利用致します

配付資料準備のため1月10日までoffice21@psjmail-box.ne.jpに参加メールを送信いただくか、FAX047-330-4091に参加FAX願います。

★初めてご参加の皆様

ご本人のオリジナル・ホロスコープ(出生天宮図)と月運診断チャートを当日配布して、診断に利用致しますので、以下の出生データをoffice21@psjmail-box.ne.jpまたは公式サイトのフォームから1月10日までに送信いただくか、FAXで送信願います。

☆出生データ☆

◎氏名 ◎氏名の読み方

◎メールアドレス ◎電話番号

◎西暦での生年月日

◎出生時刻(午前・午後○時○分まで分ければ、より診断が正確になります)が、分からない場合は不明と記してください)

◎出生地(都道府県・郡市区町村

・町名と番地まで分ければベストです↓こちらで緯度と経度を出します。)

平成30年9月本例会報告①

四〇年余の宇宙文明コンタクトから判ってきたこと、異星人と意識

講師 秋山 真人氏

こんにちは！秋山でございます。いつもここでお話をさせていたただくときが一番緊張致します。まあ本当に大先輩の方々に前に、何かちょっと同窓会的な雰囲気になるのですが。

今日、実はメインの宇宙人問題

のお話をする前に、非常に不思議なことがあります。今日は四谷から南北線で王子駅に着いたのですが、階段を上がってくるときに6つの光子体、霊的な意志を見たのです。一人はちよつと丸顔で輪郭がはっきりしていてふつと見たら、マイナスの科学の坂元邁先生でした。関英男先生も見えたのですが、光がすこく強くて、「ハーツ」と思いました。橋本健先生や志水一夫さんもおられました。大同窓会でした。



ただとそう言えば、皆さんといろんな話をしたし、長くいろんな

ものを見てきたなあ、と思います。13歳のときにスプーン曲げで「超能力脳少年」として世に出たのですが、今年58になりますので、今や「超能力おじさん」になってしまいました。振り返ってみますと、いろんな方々と一緒にやってきたこの世界の研究というのは本当に楽しいと思いましたが、やっぱり根本的には「精神世界・サイ」の研究というのは人間研究であるな、というふうに改めて思います。

しかし、この人間研究というのが、学術的には大変難しいわけですが、近年学問というのは例えば文化系の学部でさえ、エビデンスをはっきりさせろ、何か言い切ったら、とにかくエビデンス、エビデンス、エビデンスというふうに問われるわけですね。ある意味、実証主義的な学術研究というのが、主流になってまいりました。私はまあそれが非常にまた難しい分野で、ついこの前まで大学院に行きなおしていたのですが、宗教学で修士論文を出したのですね。それでも、ここで「である」と言い切ったら、「このエビデンスは何だ」「この一行のなかに出てくるこの言葉のエビデンスは何だ」と

いうふうに、非常に厳しく問い質されました。

だから、今の学術研究というのは、感覚でものを言う能力者の世界と、ある意味真逆とまではいかないけれど、170度くらいの微妙なところにあると思います。しかし改めて大学院では、23歳くらい先輩のお茶くみをやっていたのですが、実証研究の現場というのは、科学っていつやっても同じこと、誰がやっても同じことがベースになるわけですね。このチェスゲームというのは、本当に難しいゲームを学問の現場の皆さんはやっていらつしやるんだな、というのを改めて感じさせられました。

私は気軽に能力者として長くやってきたので、ある意味絵描きのような世界でもあります。だから感覚で表現する、伝統的な言い方をすれば、言霊で表現する、というのが当たり前のように、湯水のようにやってきましたので、言葉を選ぶ世界で学ばせていただいた結果、言葉というのはやはり大変な重みがあるのだな、ということも改めて感じた次第です。

しかしながら、やはり能力者としての感覚はまだまだございます

ので、やはりこういう場所に来ると、何かこう時間を前倒しにして、今日ここでこういう皆さんが意識として集まろうとしているところに、その意識に関わる人達の過去の御霊(みたま)が集まったりするということはお事実でございます。

「霊」という言葉は、一言で包括して「霊」という言葉で言いまされ、これも分析すると非常に複雑ですね。宗教によっても考え方は違いますし、捉え方も違う。しかし私はあまり今まで検証されなかった視点であえて申し上げるならば、霊というのはやっぱり「過去人」であろうな、と。過去人が今現れている。過去というものが今と交差する。まあそれをどういうふうの説明するのかっていうのは、学術的にはやはり難しいんですけども。最近では量子論というものが、少し追いついてきたようにも思いますけれど、その量子論が唱える過去と未来の絡み合いという、量子レベルでの現象が、我々能力者が霊を見るということと一致するかどうか、ということも今後精査されていかなければならぬのだらうな、とは思いますが、しかしながら、単純に能力者か

ら見れば、過去の御霊が今ここに集って、そして今また皆さんがここに集うと、この席は本当に幸多いし楽しいな、というふうに思います。ですから今日私は、もう学者としてではなく、靈感のままにお話ししますので、是非楽しんでお帰りいただけたらと思います。

今日はUFOと宇宙人に関してのお話です。よく某大学の某否定派の教授に言われるのですが、「秋山君、能力者が霊は見える、UFOは見えるというが、霊とUFOは全然別ものではないか。なんていい加減なことを言ってるんだ」と。しかし不思議なことに私の周りの能力者仲間も、やはり霊とUFOの両方とも見えてしまうのです。それで宇宙人たちというのは本当に不思議で、「各惑星から来た」と言っています。「金星から来た」、「水星から来た」とも言っています。土星や木星から来たとも言います。これはとても不思議ですね。アダムスキーに言わせれば、「月には鹿が走っているんだ」と。否定派の学者に「だからコンタクトイというのはいい加減なんだ」とまた言われます。しかし、私が

最初に静岡の繁華街でコンタクトした実体としての宇宙人は「水星から来た」と言いました。これがずっと謎だったんですけど、最近になってやっぱり、霊は過去人であり、こういった宇宙存在は、宇宙人あるいは異星人という方が正しいという方もいますが、こういう方はやはり位相の違う未来から来てるんだらうな、と感じるようになりまして。

そこら辺を実際、いろいろ問うて行くと、やはり宇宙存在たちは、少し位相の違う未来から来てるんだよということをほのめかします。ただまあ、あまり詳しい所在は言いませんが、「各惑星から来た」というのは、正直な話なんでしょう。つまり何千年も離れた未来の各惑星にもう我々の子孫が住んでいる。そしてそこからやってくる。つまり子孫が我々という先祖を供養しにやってくる、という言い方もできるかもしれません。

ここら辺はリアリティがあつて、1950年代に、アメリカが最初の核実験をやりました。その当時米国は科学技術が文化を牽引していましたが、同時にその頃、アダムスキーがモハーベ砂漠で宇宙人

と接触をするんですよ。その最初のメッセージは何かというと、「核を気をつけなさい」ということを宇宙人は何度も警告するんですね。それと同時に当時全米で流行り始めたアマチュア無線の交流の中に宇宙人の通信と名乗るものが沢山傍受されるようになります。いまだに謎なんですけどね、沢山傍受されます。

その中のメッセージの主眼は「核を気をつけなさい」です。その頃のそういった流れが後にヒッピー文化や反体制文化に影響を与えて、核反対運動にものごく根強く影響を与えます。これは元々思想ではないんですね。宇宙人から来ているのです。核反対というよりも「核を気をつけなさい」というのです。

それを予言的に考えるならば、私達、核の脅威を知っているこの日本が、やはり原発という形で再びそこに触れてしまうという、まあ因果因縁を垣間見るわけですね。ですから1950年代に既に宇宙人は警告を発している、先祖供養にきているわけです。核は被爆すれば数十年放射能が残りますので、子孫達は一番気にしているこ

とだとは思いません。

つまり我々の未来の可能性が多
元宇宙的に存在するとすれば、そ
のうちの発展的な傾向は各惑星に
我々の子孫が住んでいる、そうい
う宇宙がある。片やポキッと枝が
折れるようにこの文明が断絶する
可能性もまだ幅の中にはある。そ
の一番可能性があるのは、核の誤
作用という問題がベースにはあり
ました。

ただ宇宙人のメッセージとい
うのは、それから、六〇年代、七〇
年代、八〇年代に入っていくと、
どんどん変わっていくんですよ。
これが七〇年代に入って、精神世
界ブームと一緒になっています。
そうなると七〇年代に宇宙人とコ
ンタクトする人達の基本思想とい
うのは、霊性と言いますか、心と
ものを同じように考えていこう、
ものは分かりやすいし尺度を共有
できるけれども、それだって不確
かなんだよ、耳と目や口って不確
かなんだよ、感覚も不確かなんだ
よ、だからその奥にある心証を大
事にしようよ、というようなこと
を盛んに七〇年代のメッセージと
していろいろな人にもたらずの

すね。ここがやつぱり面白いとい
ろであります。だから七〇年代辺
りから、こういったサイの研究が
世界的に話題になりますし、あの
当時来日されたノーベル物理学賞
受賞者のジョセフソン博士に私も
お会いしましたが、「秋山君、超能
力なんかあって当たり前だよ」と
おっしゃっていました。私が「ど
ういう経験をされましたか？」と
聞きましたら、ジョセフソン博士
は「非常に物理学上の重要な研究
をやっていたときに、ラボのモニ
ターが9つ位あって、そのモニタ
ーに同時に、亡くなった身内の顔
が映ったことがある」とおっしゃ
いました。「でもあって当たり前の
ことでも科学的なルールの中で、そ
れを実証しようとしたときには、
やはり先ほど述べた再現性であれ、
いろいろな問題が出てくる」とい
うことを話しておられました。

八〇年代に入りますと、芸術と
科学を融合するような方向で、結
構多くのコンタクトイ情報を導い
ていったように思います。ですか
ら結構コンタクトイで絵が上手く
なる人がものすごく多くて、私が
九〇年頃ロシアの外務省管轄でU
FO研究部署のウラジミール・

アジャジャ博士にお会いしたとき、
ある資料を見せていただきました。
それは写実的な油絵を長く描いて
いた芸術家があるとき突然UFO
に乗せられた。宇宙人と会って、
二言三言言葉を交わして戻った。
何が変わったかというところ、その後
絵を描こうとしたら、みんなピカ
ソの絵のようになってしまった。
要するに多元的に人の形が見える
ので、キュビズムのようになっている
るな角度から見たその人の姿を、
ボンと描いてしまうのです。本当
に形も壊れていって、もう何を描
いているのか分からない、万華鏡
のような絵を描くようになったの
です。でもその画家にとってはそ
う見えてしまうのです。それをそ
のまままっすぐに表現するしかな
いという状態になっていったよう
でございます。アジャジャ博士か
らはその絵が変化していく過程を
見せていただいたのです。

九〇年代から二〇〇〇年代に入
っていきますと、宇宙人たちは水
と意識の問題を盛んにいうようにな
ります。最近私には、水は意識
の記憶体である側面がある、それ
をUFOが見えないところで常に
きれいにしているのだ、いうメッ

セージが盛んに来ますし、他のコ
ンタクトイの方も同様のメッセー
ジを受けられております。

このように、コンタクト一つ取
っても時間と共にいろいろな変遷
がございます。今年火星が接近
しているのですが、昔から「火星
が接近する年にはUFOが多く訪
れる」という話がありまして、今
年も例外なく年の当初から、UFO
の世界的な集中出現が見られま
した。特に日本は多かったですね。

それに並行していろいろな社会
的な事件も起こる、地震の頻発で
あるとか、風水害の頻発である
とか、そういう年にUFOの目撃が
多発するというのは、彼らは風水
害を止めることはできないまでも、
そこで傷ついた人々の心をやはり
ヒーリングしに来ているのだらう
な、先祖供養で来ているのだらう
な、ということはずごく感じると
ころであります。東日本大震災直
後にも福島にUFOが多数出現し
ましたし、一昨日の北海道地震直
後でもUFOが多数出現していま
す。東京でもこの6月くらいから
でもUFOが沢山でていて、私達
も何があるんだらうね、と言って
おりました。

ここで私がUFOと言っており、まずのは、意志ある宇宙人の乗り物という意味で使っておりますが、彼らは明らかにメッセージ性をもつて、時代と共に様々なメッセージの種みたいなものを我々に与えています。多分彼らは直接今を生きている、今という時間から脱出できない我々に対して、いろんな意味で直接交渉はできないだろうと思います。しかし、少しずつ少しずつ涙を落とすように、我々の文化の中にエッセンスを入れていく。それで私達はそのエッセンスから感じ取り、類推していくしかないと思うのです。その丁度ちょうつがいのな役割を果たすのが能力者ということになるのでしょうか。

しかしUFOコンタクトを含めて、能力者というのは決して特別な存在ではなくて、ほとんどの人がどこかで能力的な側面を持っているわけですね。聞こえる専門の人もあるし、見える専門の人もあるし、触覚で感じる専門の人もある、味だけがくる人、匂いだけがくる人、いろんな実は靈感というものがあって、その感覚を窓口にしていろいろなメッセージが入ってくる。

多分時間というものを取り外したら、私達は過去、未来から膨大な様々ないろいろな想いをもったメッセージを得ているのでしょうか。霊は先祖の過去人であります。そこから今を生きている我々には確かに先祖達はいろいろ言いたいことはあると思いますよ。さらに我々はある意味、未来人からお説教を受けているのかもしれない。そうやって考えると今を生きているということは責任重大であります。ただ彼らは当事者として物理的に今を生きている役割ではないから、今は私達が責任をもって行動しなければいけないわけですし、さあどう生きるのかということに常に問い質している存在でもあろうかというふうに思います。

特にこの近々になりました、やっぱりメッセージとして増えてきていますのは、クリエーションの問題のさらに先を行くもので、水は物質的な体質を変えていくわけですけれど、その次のものが少し出てきています。(つづく)

第四〇回関西日本サイ 科学会研究集会報告

孝明天皇の遺勅と切紙神示

講師 出口恒(ひさし)氏

とき…2019年7月20日(土)
ところ…阿倍野市民学習センター

「出口ナクセバ日本はホロブ」
「出口ヲ一ワニ、二千六百年、七十のトシ」

この謎めいた言葉は幕末に、孝明天皇が「切紙神示」によって得た神勅の一部である。

切紙神示とは宮中に古来より伝わってきた神示を下ろすための手段である。そしてそこから得られた神のメッセージも含めて「切紙神示」と呼ぶ。

孝明天皇は切紙神示を「皇国の神術」あるいは「神国の秘法」と呼び、国家の未来を占った。

これは従来の日本史ではまったく知られていない。実は私が生まれた実家―そこは私の曾祖父である出口王仁三郎が晩年を過ごした家でもある―で、平成十年(一九九

八年)に発見された『たまほこのひ可里』という筆書きの文書によって明らかになったことである。

千百年ものあいだ日本の都だった平安京の、最後の天皇となった孝明天皇は、次の新しいミレニアムの幕開けを切紙神示によって覚ったのだ。

切紙神示は次のように日本の未来を警告した。

「日本のミ九サ(三種)の神タカラ(宝)とヒノマルのミハタ(御旗)をベークク(米国)はウバウタクミ(奪う謀み)、ユダンスルナ「日米戦の状態は天はヒコーキ、ヒコーキ(飛行船)、バクタン、地は旭のミハタ、大ホ(大砲)、タン九、ウミラクグルマノフネ(海を潜る魔の船)潜水艦」

しかし孝明天皇が待ち望んでいたのは明治維新ではなかった。

「一ワニ 神のオヤク(御役)、二千六百年で七十のトシ(歳)、神が見止めて神が守る」一ワニとは出口王仁三郎のことである。王仁三郎は俗に王(ワ)仁(ニ)三郎とも呼ばれ、皇紀二六〇〇年(昭和十五年)に七十歳となる。

孝明天皇は数十年後に出口王仁三郎なる人物が丹波の綾部に出現

することを切紙神示によって知った。孝明天皇は日本を救う「みろくの大神」＝出口王仁三郎の登場を待ち望んだのである。

孝明天皇は死を覚悟して「遺勅」（天皇の遺言となる勅命）を書き、最も信頼できる部下にそれを託し、皇紀二六〇〇年になったら「みろくの大神」に渡すよう命じた。

その遺勅は、敬神尊皇の熱い心を持つ2人の男によって大切に守られ続け、昭和十七年に出口王仁三郎のもとに届けられた。

しかし時代はまだそれを表に出せる時ではなかった。ここに王仁三郎は一つの仕組を施した。自分が昇天してから五十年後に、孝明天皇の遺勅が表に出るようにしたのである。

そして平成十年（一九九八）一月十九日、王仁三郎の五十年目の命日に、封じられていた仕組の「玉手箱」が開いた。『たまほこのひ可里』が私の生まれた家「熊野館」で見つかったのである。

あれから二十年が経つ。今こうして皆さんに発表できることがとても嬉しい。

皆さんにはぜひ、ご自身で半紙

とハサミを用意して実際に「切紙神示」を試してもらいたい。

予言の言葉が次々と現われてくる神祕に「神の存在」を感じていただくことが、その目的の一つ、そしてもう一つの目的は、幕末維新という近代の幕開けにおいて、まだ明かされていない重要な事実があることを実証的に知っていた



孝明天皇の遺勅は『たまほこのひ可里』に記されている。その文書には、今まで大本の歴史や日本史では語られなかった新事実が明らかにされている。

孝明天皇が神勅を得るために用いた「皇国の神術（あるいは「神国の秘法）」は「切紙神示」だけではない。「八紘一字の敷表」と呼ばれるものも、『たまほこのひ可里』と同時に発見された。

やはり宮中に古代から伝わって来たと思われる神法であり、これも用いて孝明天皇は未来を占った。孝明天皇が待ち望んだみろくの大神 王仁三郎は、有栖川宮熾仁親王の息子である。そして孝明天皇は熾仁親王が自分の後継者だと考えていた。

孝明天皇―熾仁親王―王仁三郎をつなぐ神の糸（意図）も見えてくるはずだ。

熊野館で見つかった玉手箱はパンドラの箱ではない。時が来たら封印が解かれるように神が仕組んだ「真実の箱」である。

真実を知ること、人類の未来みろくの世が垣間見えてくるだろう。

◎出口恒氏プロフィール

1957年京都府亀岡市生まれ。作家 出口王仁三郎アカデミー学長、一般社団法人「出口王仁三郎大学」学長。日本の作家、言霊学

講師。自治調査研究会特別顧問 NPO 法人日本未来研究センター 大阪オフィスを代表。

大本教祖の出口王仁三郎の直系曾孫。父の出口和明は作家。

1981年早稲田大学法学部を卒業、2009年3月同志社大学大学院修士課程ビジネス研究科を完了、MBA（専門職修士）。

2015年から中村孝道と出口王仁三郎の言霊学の系譜血統を継ぐものとして言霊学の解明・普及に取り組んでいる。

2015年12月より、FB「出口王仁三郎大学大学院・言霊音楽学部」を主宰。2017年1月、一般社団法人「出口王仁三郎大学」を設立。（大学内に 日本言霊学協会を設立）。2019年出口王仁三郎アカデミー設立、学長に就任

■出口王仁三郎思想・言霊学を中核として 分割統治された学問の統一を目指す。2019年からカタカムナ・ラシテ文字への取り組み開始。

主な著作「切紙神示と共に甦る孝明天皇の遺勅（予言）誰も知らなかつた日本史 皇室に隠された重大な真実」（2016年 ヒカルランド）

「切紙神示」「たまほこのひ可里」
 「八紘一字の数表」天皇家秘伝の神術で見た日本の未来(2017年 ヒカルランド)、「世界のどこにもない特殊なこの国と天皇家の超機密ファイル 神の国の神がわれわれにさえも隠したもの」(共著)(2017年、ヒカルランド)、
 大本言霊学 火之巻…
 大本言霊学 天之巻…
 父和明の著作の再版 大地の母全12巻 実録出口王仁三郎

☆ ☆

当日の参加者は会員12名、非会員17名、合計29名であった。

◆ ◆

本部例会ビデオ映像販売のお知らせ

ハイビジョン映像・音声ファイル(約3時間)を記録したUSBメモリでお送りしますので、ほとんどのデスクトップあるいはノート型のウインドウズ・パソコンで見ることが出来ます。

価格 1本につき 二五〇〇円 (送料含む)

※御注文はメールまたはFAXで左記に掲載のメールアドレス(またはFAX番号)に、「2013※年〇月〇〇〇〇氏ビデオ購入希望」と記して、郵便番号、住所、氏名、電話番号を書いて、御注文願います。2週間以内に発送致します。
 office21@psjmail.bo.ne.jp
 FAX 047・330・4091

お支払いは、到着後同封の郵便振替用紙で8日以内にお振り込みいただければ、結構です。
 以下のビデオ映像から、御注文願います。

- ◎2013年4月本部例会
 講師 大野百合子氏
 「宇宙図書館(アカシックレコード)から見た世界の仕組みと私たち—あなたは誰なのか—」
- ◎2013年5月本部例会
 講師 浪平博人氏
 「イメージによる瞬間教育」
- ◎2013年6月本部例会
 講師 松原秀樹氏
 「アレルギーを治す秘訣」
- ◎2013年7月本部例会

講師 酒向猛氏

「千鳥学説を知るために」
 ◎2013年9月本部例会
 講師 奥野節子氏

「ブラジルの奇跡のヒーラー
 ジョン・オブ・ゴッド」
 ◎2013年10月第23回全国大会
 シンポジウムテーマ

「サイと自然治癒力」
 ◎2013年11月本部例会
 講師 小久保秀之氏

「生体センサによるサイ研究—超能力研究の最前線」
 ◎2014年1月本部例会
 講師 小川博章氏

「魂の発見」
 ◎2014年4月本部例会
 講師 西川真知子氏

「生命の智慧 アーユルヴェーダ—アーユルヴェーダから見る生命のすばらしさ—」
 ◎2014年5月本部例会
 講師 岩根和郎氏

「般若心経とサイ科学」
 ◎2014年6月本部例会
 講師 秦西平氏

「気超科学と宇宙生命哲学
 新病気学」
 ◎2014年7月本部例会
 講師 小林信正氏

「ラップ現象の究明—オーブとの関連性について—」
 ◎2014年9月本部例会
 講師 石川允朗氏

「死後の世界と輪廻転生についての一考察」
 ◎2014年10月第24回全国大会
 シンポジウムテーマ
 「サイと天変地異」
 ◎2014年11月本部例会
 講師 坂井洋一氏

「日本人は知らない!縄文日本の驚くべき真実」
 ◎2015年1月本部例会
 講師 英国からの特別ゲスト
 THE SOURCE CODES
 ソースコードは何ですか?」
 ◎2015年4月本部例会
 講師 根本泰行氏

「水からの伝言」と「新しい水の科学」
 ◎2015年5月本部例会
 講師 水華氏
 「君を見放したりはしない—宇宙神技点描画家—水華の世界(ヒカルランド)」
 講師 上部一馬氏

「巨大地震を1週間前につかめ」
 ◎2015年6月本部例会
 講師 末武信宏氏

「サイと自然治癒力」
 ◎2013年11月本部例会
 講師 小久保秀之氏

「生体センサによるサイ研究—超能力研究の最前線」
 ◎2014年1月本部例会
 講師 小川博章氏

「魂の発見」
 ◎2014年4月本部例会
 講師 西川真知子氏

「生命の智慧 アーユルヴェーダ—アーユルヴェーダから見る生命のすばらしさ—」
 ◎2014年5月本部例会
 講師 岩根和郎氏

「般若心経とサイ科学」
 ◎2014年6月本部例会
 講師 秦西平氏

「ラップ現象の究明—オーブとの関連性について—」

「死後の世界と輪廻転生についての一考察」

「日本人は知らない!縄文日本の驚くべき真実」

「水からの伝言」と「新しい水の科学」

「君を見放したりはしない—宇宙神技点描画家—水華の世界(ヒカルランド)」

「巨大地震を1週間前につかめ」

「先端アンチエイジング医療&超人を生む自律神経の開発」

◎2015年7月本部例会

講師 飛沢誠一氏

「見えない世界の情報を如何に活用するか？」

◎2015年9月本部例会

講師 山田欽子氏

「あなたの人生が楽しくなるインド占星術」

◎2015年10月第25回全国大会

シンポジウムテーマ

「あの世と多次元世界」

◎2015年11月本部例会

講師 坪井香讓氏

「野性と靈性・ヒトの原点

『直立二足歩行』から問う」

◎2016年1月本部例会

講師 佐々木茂美氏

講師 佐藤禎花氏

講師 苗鉄軍氏

「オーブ研究の現状報告」

◎2016年2月本部例会

講師 正木晃氏

「靈魂觀の現在」

◎2016年4月本部例会

講師 沖田祐美子氏

「神々の謎」

◎2016年5月本部例会

講師 河野貴美子氏

「意識、無意識、そして潜在能力を脳の観点からどこまで解明できるか？」

◎2016年6月本部例会

講師 エスパール・小林氏

「『運』がつく人、「靈」が憑く人」

◎2016年9月本部例会

講師 志賀一雅氏

「7.8Hzのローα波の驚異」

◎2016年10月

創立40周年記念大会

シンポジウムテーマ

「地球外知的生命・UFOと宇宙人(宇宙人サミット)」

◎2016年12月本部例会

講師 藤枝伸二氏

「藤枝流健康増進法」

◎2017年2月本部例会

講師 秋山佳胤氏

「私たちの存在の本質について、波動的、物質的視点から考える」

◎2017年4月本部例会

講師 池川明氏

「子供達の出産前の記憶が教えてくれること」

◎2017年6月本部例会

講師 生れる前の記憶を持っている子供たちと、たいわ士の南山みどりさんのたいけんトーク会

◎2017年6月本部例会

講師 大高ゆうこ氏

「自分も知らない自分と出会うー夢のチカラ」

講師 小林敦氏

「人類の存亡を分けるもの」

◎2017年9月本部例会

講師 石川允朗氏

「健康で長生きすることを科学的と心霊的、そしてSWIIについての実演」

◎2017年10月第26回全国大会

シンポジウムテーマ

「AIを乗り越えるのは？ AI「人工知能」vs PSI「サイ能力」」

◎2018年2月本部例会

講師 篠浦伸禎氏

「覚醒下手術から始まる統合医療」

◎2018年4月本部例会

講師 七沢智樹氏

「ログストロシステムが拓く未来」

◎2018年6月本部例会

講師 由井寅子氏

「体・心・魂を三位一体で治療に導く 未来の医学『ZENホメオパシー』」

◎2018年7月本部例会

講師 清水浦安氏

「天界に帰還した中村天風先生が今の日本人に伝えたいこと」

◎2018年9月本部例会

講師 秋山眞人氏

「40年余の宇宙文明コンタクトから判ってきたこと、異星人と意識」

◎2018年10月第27回全国大会

シンポジウムテーマ「水と健康」

◎2019年2月本部例会

講師 東中川徹氏

「エビジェネティクスとは何か？」

◎2019年4月本部例会

講師 佐々木茂美氏

「オーブ研究の最近について」

◎2019年6月本部例会

講師 小久保秀之氏

「マイクロPK現象の発生メカニズムについて」

◎2019年9月本部例会

講師 志賀一雅氏

「脳波とバンアレン帯との共鳴について」

◎2019年10月第28回全国大会

シンポジウムテーマ

「スピリチュアル・ヒーリング」

◆ ◆

《本部月例会・全国大会講演録音の販売》

本部月例会・全国大会のICレコーダーによる録音の音声ファイル(拡張子wma)なので、聞くためには「CD、DVDプレーヤー」の付いたウィンドウズ・パソコンが必要になります。

以下のリストから興味のある講演、今一度聞いてみたいものを御注文願います。講演時間は平均3時間前後で質疑応答等も含まれます。マイクからの直接録音ではなく、やはり会場のスピーカー音の録音ですので、完璧な鮮明さではありませんが、もちろん内容は普通に聞き取れます。当日放映されたビデオやOHP等で紹介された図や写真は付いておりません。

講演録の代金は1回分1,500円(送料等含む)です。お送りするのは講演録の入った「CD-R」で1枚につき6、7回分が入ります。(一部のノートパソコンを除いて、大抵のウィンドウズ・パソコンには、「CD-Rファイル」が読めるプレーヤーがついております。)

※御注文はメールまたはFAXで、下記のメールアドレス(またはFAX番号)に、「201※年〇月〇〇〇〇氏講演録音購入希望」と記して、郵便番号、住所、氏名、電話番号を書いて、御注文願います。2週間以内に発送致します。

お支払いは、到着後同封の郵便振替用紙で8日以内にお振り込みいただければ、結構です。

E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp FAX 047-330-4091

- 2010/10/10 第21回全国大会 シンポジウムテーマ「2012年問題とサイ」
- 2010/11/14 秋山眞人氏「夢診断と未来予測」
- 2010/12/12 宇治橋泰志氏「新たな予防医学を目指して」
- 2011/ 1/ 8 新年会も兼ねた会員の体験意見発表と討論の会
- 2011/ 2/12 石川和孝氏「世紀末の神示と予言の陰陽道的思考」
- 2011/ 5/14 赤松 瞳氏「最新脳科学と透視能力」
- 2011/ 6/12 井出 治氏「未知エネルギーの研究とチャネリング」
- 2011/ 7/18 古村豊治氏「なぜあなたに大きな奇蹟が起こらないのか?」
- 2011/ 9/10 鈴木俊輔氏「3・11新文明の幕開け～日本人の使命～」
- 2011/10/ 9 創立35周年記念大会 シンポジウムテーマ「パワースポット」
- 2011/11/12 小林信正氏「心霊現象について」
- 2011/12/10 忘年会も兼ねた会員の体験意見発表と討論の会
- 2012/ 1/14 ミッツィ植田氏「縄文スピリットでサバイバル」
- 2012/ 2/11 小林正典氏「サイ科学に関係した電気・磁気の研究の紹介」
- 2012/ 4/14 ロン薄葉氏「オーブ現象とこれまでの歩み」
川崎利男氏「オーブ観察7年間その傾向と残された課題」
- 2012/ 5/12 徳永康夫氏「命とソマチットと般若心経の探検」
- 2012/ 6/10 松永修岳氏「密教開運術「強運の成長戦略提言～氣を高めれば運はやってくる～」」
- 2012/ 7/14 中島敏樹氏「水と珪素の集団リズム力」
- 2012/ 9/ 8 ホンマシュウジ氏「未曾有の天災・人災を目の当たりにして、サイ科学は何ができるのか!？」
- 2012/10/14 第22回全国大会 シンポジウムテーマ「コンタクト」
- 2012/11/10 藤森博明氏「気(生命エネルギー)の实在と能力」
- 2013/ 1/12 志賀一雅氏「α波のコヒーレンシーについて」
- 2013/ 2/ 9 宇治橋泰志氏「疾病を根本から改善する新治療法を求めて」

目標8.すべての人間が意識のネットワークでつながっている。

目標9.人を愛する想念を発すれば自分も愛され、人を傷つける想念を発すれば自分も即傷つく。

目標10.自分の雑念を消したとき、高次元から

のインスピレーションを受けられる。

目標11.他の進化した星々から地球に来て、人類を観察したり、陰で援助している存在がいる。

目標12.空間には莫大なエネルギーが存在し、それを自由に引き出せる装置ができる。

「心」の科学研究の開始について

栗田 慶祐

人工知能(AI)が造る「心」の研究を、さらに進めるためには、人の心(意識、無意識)の科学的な研究が必要であると思われます。現在のコンピューターが造るAIの心は「物」ですが、人の心には「精神」と言われる性質があり、「質」が異なります。つまり、物には再現性や因果律などの法則がありますが心にはそれが無く、不確定であり、ゆらいでおり、量子力学の素粒子に類似した性質をもっています。また昔から形而上学並びに形而下学と言われる様に、両者は別であります。他方、両者の性質を兼ね備えるものにサイ科学としての超常現象、ESP(超感覚)や念力(PK)がありますが、心が科学的に不明なので、現在は、説明する事が出来ません。人工知能(AI)に「精神」等の人の心(意識など)を加える為には、サイ科学の研究が必要であると思います。ここでは、筆者らの「オーブ・たまゆら」について紹介します。

超常現象の最大の欠点は再現性に欠ける点にあると云われております。必要なきに実験検証ができないので、現象の実在が疑われてきました。しかし「オーブ・たまゆら」の場合は、空気中に含まれる水蒸気の割合や気温などの環境条件を整える事。さらには変性意識状態(ASC)近くで念じる事等により、約1/50であると言われる出現率を約1/3の確率まで高める事ができました。つぎに、オーブとは何か?どのような状況で発生し、我々の意識エネルギーとどのように関わっているのか、について検討します。特徴として、(1)オーブは撮影者の心(変性意識状態「ASC」

付近)に共振(同調)して、出現してきます。そして(2)近赤外線域に潜在しており、素粒子類似の性質(非局所的、ランダムに拡散)を持っております。(3)オーブの模様(表情)をカオス解析すると、オーブのカオス・アトラクター(駆動因子)は1.9~2.3(チャクラの数に相当)となることが分かりました。(4)オーブの構成要素は、陰と陽のサイ(気)スピン対、プラズマ化した陰と陽のイオン・スピン対、電子、エアゾール等であり、自己発光性の光(色)とし表示されております。(5)生活空間では、単一の光子(素粒子)群による発光現象が見られますが、サイ(気)はスピン対の巴型状(複合体)であり、体外の物質(オーブ)と心(意識、無意識)を結びつける役割を果たしております。(6)オーブの形状は平面状もありますが、多くは中実の球体状であり、しかも、周りの環境(ノイズ状小球オーブ)に影響を受けております。(7)オーブの動きは、地球の共振周波数(約7.8Hz)に共鳴し、その姿勢は地磁気方向(N,S)に関連しております。さらに、(8)あの世、魂、に関連していると判断されており、これらについて、新しい解釈や評価が産まれる可能性があります。人間は、死ねば、必ずあの世に行くこととなります。あの世とこの世を結びつけるのは、オーブ(たまゆら)のみであると考えられます。このオーブ研究により、100年以上前(1910年)に東京帝国大学の福来友吉博士によって発見された念写の機構がほぼ判明した(動画の連続撮影)、と考えられます(2019年3月15日、記)。

本質、宇宙の本質を体感、言い方を変えれば、宇宙創造意識あるいはその化身と一体化することで悟りを得て、人間がどう生きるべきかを弟子達に伝えたのです。ここからも分かるように、ホモ・サピエンスは2000年以上前に「梵我一如」に到達するレベルの人間が現れ、この2000年間DNA的には、そんなに進化していないので、例えば2000年前の人間のDNAをもった赤ちゃんを現代に連れてきて育てても、今の若者達と変わらないでしょう。

釈迦、キリスト、空海という覚者が現れても、その教えに触れることのできた弟子達や、遺された教えを学ぶことのできた後世の人々はそれなりに生き方に取り入れるでしょう。

しかし、「100人の村」のお話にあるように、99人の幸福な人間がいてもたった1人不幸な人間がいれば、その人間は不満をもち恨みや妬みで他の人間を攻撃することが起こります。非常に残念ですが日本で最近起きた数件の、たった1人の社会や自分に不満をもつ人間が、多くの無実で無抵抗な人間を殺戮する事件が上記のお話を象徴しております。

どうしてこういうことが起こるのでしょうか？ どうしたらこういう事件を防ぐというよりも、こういう事件を起こす人間が出現しないようにできるのでしょうか？

実は結論は簡単なのです。人間ひとり一人が自分の利益のためだけではなく、すべての人間が幸せに生活できる社会を構築するべく、行動するという事です。人類の進化というのは、もはやDNAや脳の進化ではなく、社会構造の進化であり、そのためには人類全体が人間の本質、宇宙の本質、より高次元の宇宙の構造を知ることによって、それらが人類全体の常識になったときに、すべての人々が生活の不安なく、争いの不安なく、戦争の不安のない、自分の好きなことをやって社会に貢献できる「理想社会」が完成するのです。人間が本当に幸せを感じるのは、お金や財産を沢山持つことではなく、家族、周囲の人々と仲良く、もちろん生産的な議論はあっていいのですが、楽しかったり、建設的、創造的な方向に行動しているときです。

2045年にシンギュラリティ(技術的特異点)が来て、AI(人工知能)が発達し、人間の知性を超えることによって、人間の仕事を奪ったり、

人間の生活に大きな変化が起こる予測があり、不安をもつ人々が沢山います。もちろん人間とAIの間でしばらく調整する期間は必要ですが、私は楽観的に考えております。

もし、サイ科学の主要な研究対象である「フリーエネルギー機関」が完成すれば、AI等ヒューマノイド(人型ロボット)も空間から自動的に充電でき、農業・工業等の生産活動や人間ができない、もしくはしたくない仕事も遂行してくれます。将来的には、人類はもの作りでも芸術でも自分のやりたいこと、やり甲斐のある仕事で生活できるでしょう。もちろん、生活はUBI(Universal Basic Income:すべての国民に生活できるレベルの給付金が国家から支給される)で保証されます。

ただ、以下のPSIGs(サイサイズ)が人類全体の常識となるためには、宗教の教えではなく、1番難しい分野を科学の力で証明しなければならないので、かなりの時間を要するでしょう。ホモ・サピエンスが真の「理想社会」に到達するまでには、あと数百年から千年かかるかもしれません。少なくとも目標7以下はサイ科学の対象とする分野でこれらが到達できれば、それより上位の目標は時間はかかりますがすべての人がインスピレーションを受けられるようになり、帰納的に納得して、常識になる時代が来ると確信しております。

PSIGs(PSI Science Goals:サイ科学の最終目標)

以下の12項目が、人類全体の常識となる。

- 目標1.大宇宙全体を創造している無限の知性をもつ創造意識が存在する。
- 目標2.創造意識はほぼ0(素粒子レベル)の存在からビッグバン創造を始め、138億年間様々な創造を楽しんでいる
- 目標3.創造意識は創造物のすべてに浸透している。
- 目標4.創造意識は自分の創造意識を入れる器として生命を生み出し、進化させて人類を生み出した。
- 目標5.創造意識は人類を通して、自分の創造した世界を体験する。
- 目標6.人間はその創造意識と一体化できる。
- 目標7.創造意識の一滴がPK能力とESP能力であり、それらは誰もがもっている。

700万年前にチンパンジーと共通の祖先から人類が分かれ、進化を進め、約30万年前に我々ホモ・サピエンスが現れたのです。それは、宇宙創造意識が進化の途上にあったホモ属に、創造意識の一滴を注いだとも考えられます。

私が学生時代するとき、人類の進化は「直立猿人、北京原人、ネアンデルタール人、クロマニヨン人、ホモ・サピエンス」の順番で1系列で進化してきたと習いましたが、今の人類学では数万年前まで「ホモ・サピエンス」と「ホモ・ネアンデルターレンシス」と「ホモ・フロレシエンシス」等のホモ属が同時並行的に棲み分けていたことが分かっており、約5万年前に「ホモ・フロレシエンシス」が、約4万年前に「ホモ・ネアンデルターレンシス」が絶滅したと推定されています。

ホモ・サピエンスとネアンデルタール人の交配があったことは遺伝子的に分かっているのですが、最近私が知って驚いたのは、ネアンデルタール人の遺伝子を1番受け継いでいる（遺伝子全体の2%程度）のが日本人であるということです。

ネアンデルタール人は基本的に死者を大切に埋葬したりしたように優しさや芸術心もあったようですが、日本人に多い「花粉症」は日本人がネアンデルタール人から受け継いだ免疫特性を持っていることに関係あるそうです。

前置きが長くなってしまいましたが、ホモ・サピエンスは約30万年前から、それまでの人類と同様、男は主に狩猟・漁撈、女は主に木の実の採取、子供を産み、育てる仕事を続けてきて、1万年程前から農業が始まりました。それにより、富の蓄積、貧富の差、身分の差が生まれ、それまでもホモ・サピエンス同士の争いはありましたが、集団での戦いが増えて行きました。

その後は部族、民族、宗教、国家間の争い、戦争となり、現代では核戦争の脅威にホモ・サピエンスはおののいております。それでもホモ・サピエンス（賢い人間）は何とか人類絶滅の悲劇が起こらないように、いろいろ策を考えております。

最近書籍やネットで話題になる、SDGs (Social Development Goals: 持続可能な開発目標) は、2015年9月に国連本部にて採択されたもので、国連が定めた17の国際目標（その下に169の具

体策と232の指標で構成される) です。そして、2016年から2030年までに、貧困や飢餓、気候変動、平和的社会など、持続可能な開発のために国連加盟するすべての国は目標達成を目指すことを同意しています。

SDGsを紹介するスペースがなくなってしまったのでお手数ですが、以下のURLをご参照願います。

https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/31737/ 国際連合広報センター

これらはホモ・サピエンスが今後も繁栄を続けるには欠かせない目標ですが、2030年までにどこまで達成できるか、誰も予測できないでしょう。

結局地球上で、ホモ・サピエンスがホモ属の最後の生き残りとなったのですが、「賢い人間」のはずなのに、現在でも資本主義、社会主義、独裁主義、覇権主義の名の下に、少数の支配階級、資本家、資産家、独裁者が大部分の富を握り、民族間、国家間、宗教間の争い、富と権力の奪い合いを続けております。

私の周りにいる若者達も、「人類は昔から戦争をしてきて、今後も戦争をし続けるだろう」と思っている層が大部分です。

しかし、私は彼らに伝えるのですが、「確かに現代の人類全体のレベルは真の智慧のある高等人類のレベルではない。喩えれば、大学生が高等人類のレベルなら、現在の人類は小学校低学年のレベルなんだよ。」と。

それは何故か？ 確かに2500年以上前からタレス、ピタゴラス、ユークリッド、アルキメデスなどの数学者が現れ、まず数学の世界が発展し、その成果により17世紀後半から自然科学の父と呼ばれるニュートンらによる物理学、自然科学が発展し、現代の相対論、量子力学の2本柱まで到達したのは、ある意味人類の科学の発展スピードもたいしたものだと思います。

ただ未だに、人間の本質、宇宙の本質、上位次元の世界のことは分からずに、個人のエゴイズム、家族のエゴイズム、集団のエゴイズム、国家のエゴイズムに基づいて、ほとんどの人々、国家は動いております。

実は2500年前に釈迦が現れ、2000年前にキリストが現れ、1200年前に空海が現れ、人間の



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp
公式サイト <http://psi-science.org> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

サイ科学が理想社会に導く —SDGsからPSIGsへ—

小林 泰樹

タイトルが日本サイ科学会として、我田引水な印象を与えてしまうかもしれませんが、先に結論を言ってしまうと、長年サイ科学を研究している人間が科学的に証明しようとしている真理が、世界人類の常識になれば、ホモ・サピエンスの社会は理想的なものになるだろう、ということなのです。

以下、最近よく話題になりますSDGsに絡めて、その道程をお話したいと思います。

私が23歳のときに読んで人生に大きな影響を受けたパラマハンサ・ヨガナンダ師の「あるヨギの一生」(森北出版)の中に、「大宇宙は1つだけではなく、空間に浮かぶ風船のように、大宇宙はいくつもあるのだ」というグルー(師匠)の言葉がありました。最近理論物理学者の間でも、「私たちが見ているこの宇宙以外にも無数の宇宙が存在し、今も次々と生まれている。宇宙は単一のユニバースではなく、多数の宇宙が存在する『マルチバース』なのだ」というマルチバース理論(異なる物理定数の別の宇宙も含む)が大いに関心を集めております。

実は物質的なマルチバースだけでなく、この大宇宙自体も多次元世界であって、より上位次元の世界から順に形成され、「我々が認識するこの物質世界は、ヒッグス粒子により質量が加わるので、変化するのに大いなる時間とエネルギーが必要な1番下の被創造物の世界である」という説明がヨーガ哲学にもあり、この物質世界は「マヤー(幻影)」として、低く評価されたりします。

しかし私は逆にこの物質世界こそ、宇宙創造意識の最終的な創造のステージ(舞台)で、何かを形成するにも試行錯誤と大いなる時間が必要な場であり、創造の楽しさ、面白さがある、と宇宙創造意識になったつもりで評価しております。

「数学は自然界を記述する言語である」という言葉は真実ですが、私が「宇宙創造方程式」と呼んでいる数学の単純な等式があります。

$0 \div 0 = \text{不定}$ (⇒すべてのもの)

数学では0で割る操作はNGなのですが、実はこの式がビッグバンの起こる直前、素粒子レベル、ほぼ0の大きさである宇宙が、宇宙誕生からインフレーションまでのビッグバンを起こして、灼熱の宇宙から現在の宇宙に成長したことを象徴しています。仏教哲学でいう「空」が「空」を分割して、すべてのものになった、と考えられるのです。般若心経でいう「空即是色」にあたります。「色」は「物質」です。

138億年前、ビッグバンにより大宇宙創造を始めた宇宙創造意識は「創造の多様性」のもとに、あらゆる形態の銀河団、銀河、天体を創造し、確率は非常に低いですが、生命の存在できる天体には生物を産み、進化させてきました。

地球上では私が見ても面白い恐竜時代が1億5,6千万年続き、宇宙創造意識はその生態を観察してきました。そして約6550万年前、直径10kmほどの隕石を地球に衝突させて、恐竜時代を終わらせて、哺乳類の時代が始まり、